

新島襄全集編集委員会編・同朋舎刊

# 新島襄全集

全10巻

## ■第1巻 教育編

解題・河野仁昭

わが国の近代教育の濫觴の時代に、先覚者の一人であった新島襄が抱きつづけたキリスト教主義にもとづく教育の理想と、その理想の実現をめざして苦闘した跡を雄弁に物語る教育関係草稿・諸記録など八〇余篇が、この巻に収録されている。また、彼の演説・論説草稿や「理事功程草稿」も、この巻に収録されており、新島の教育と学術に関する全容をとらえうる。(発売中 六〇〇〇円)

## ■第2巻 宗教編

解題・高橋 虔

教育者新島襄は、敬虔なキリスト者として、近代化の緒についたばかりのわが国で、ほぼ全国を伝道行脚し、また、キリスト教



## ■第3巻 書簡編Ⅰ

解題・杉井六郎

界の指導的役割を担った巨星でもあった。その新島の説教と宗教演説の草稿を中心に、一致・組合而教会の合併問題に関する意見草稿、みずから創設した京都第二公会の「録事」、聖書を学んだ跡をしめす史料等、約一四〇篇がこの巻に収録されていて、キリスト者新島襄の全貌を明らかにする。(発売中 七〇〇〇円)

新島襄は書簡の人だといわれてきた。それは、彼にまもった著述がなく、かつて書簡以外の史料が、あまり公にされなかったことにもよるであろうが、書簡において彼は、その思想や信条ひいては人間性を、もっとも自在に表現しえた、とみられるからで

あった。遺した量もまた豊富である。

彼の和文書簡は、従来約六八〇通が公刊されたが、この全集で新はたに約二〇〇通を加えて、二分冊とした。

この巻には、嘉永五年に十歳の新島七五三太が、安中藩家老尾崎直紀に差出した書状にはじまり、明治二十年に至る約四〇〇通を収録する。

## ■第4巻 書簡編Ⅱ

解題・杉井六郎

明治二十一年から、四十七歳の生涯を閉じた二十三年一月までの約五〇〇通(年代不詳を含む)を収録する。

同志社大学設立のための募金運動に関する書簡が多いが、教育や伝道に関する書簡も少なくない。そしてこの時期、悲願を訴える新島の声はいっそう熱を帯び、真情の吐露はいっそう端的になり、たとえば「良心ノ全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ望テ止マサルナリ」といった不朽の象徴的な名句が記されたのであった。

## ■第5巻 日記・紀行編

解題・島尾永康

新島襄の処女航海の手記「玉島・兵庫紀行」にはじまり、最晩年の「漫遊記事」まで、彼の十六冊の日記・紀行類のすべてを、この巻に収める。従ってこの巻には、スリリングでドラマチック

な「函館脱出之記」「航海日記」などの他、伝道や募金運動のために全国を行脚した彼の旅行日記などが含まれる。人間新島襄を知るうえで、これらは貴重な史料である。

この巻にはまた、新島が日記・書簡その他に書きとめた漢詩、和歌、俳句なども収録する。(近刊)

## ■第6巻 英文書簡編

解題・オーテス・ケリー

新島襄が実の父母のごとく慕い、また、その恩愛を生涯忘れることのなかったアルフィアス・ハーディー夫妻に書き送った書信一一〇余通など、合計三二〇余通の英文書簡を収録する。

これらの書簡によって、同志社およびプロテスタント・キリスト教界の現況、彼の信仰と信条、願望や苦悩などとともに、義理固い人柄の一面も知りうる。また、明治初期の日本人が綴った英文史料としても注目されよう。(近刊)

## ■第7巻 英文日記・紀行編

解題・オーテス・ケリー

新島襄が遣米使節団の一員田中不二麿に請われ、彼とともに欧米の教育事情を視察した明治五(一八七二)年以降、帰国する明治七(一八七四)年までの間に記された三冊の日記・紀行をはじめとして、二度目の外遊中(明治十七(一八七四)年)の六冊の日記・紀行ノートなど、十数点の英文史料をこの巻に収録する。恩人ハ

デーリーのすすめで書いた“*My Younger Days*”や“*アメリカン・ボードに提示した“Schemes of the Speedy Evangelization of Japan”*”などもこの巻に収める。また、多数の自筆スケッチを添える。これらの史料は、“*My Younger Days*”を除いて、かつて公刊されたことがなかった。

## ■第8巻 補遺・雑纂編

解題・河野仁昭

補遺、断簡、学習ノート、募金関係史料、伝道関係史料、葬儀関係史料、民治・八重ら新島家史料、新島先生遺品庫収蔵目録、新島旧邸蔵書目録、文献目録、新島妻年譜、その他を収録する。新島の全体像を知る上において不可欠の史料だといえる。

## ■第9巻 来簡編

解題・杉井六郎

政界・財界・キリスト教界・教育界をはじめ、同志社関係者、教え子などから新島襄に送られた書簡を厳選して収録する。新島がかかわりをもった人物と、その交際の内幕を知りうるのみでなく、新島書簡と相互補充の関係をなすものである。

## ■第10巻 『新島襄の生涯と手紙』(訳)

A・S・ハーディー編著 解題・北垣宗治

編著者 A. S. Hardy は、新島襄の恩人アルフィアス・ハーディー夫妻の三男で、大学教授であり、作家であり、外交官でもあった人で、新島とは兄弟のごとく交わった。

彼は、新島が両親に寄せた手紙や、父の求めに従って書いた「脱国の理由」、「青春時代」(*My Younger Days*)などの編纂を思い立ち、わざわざ調査のために来日するほどの綿密周到な調査をこれに加えて、新島永眠の翌年、明治二十四(一八九一)年に *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima* と題して、ボストンから上梓した。新島その人に、直接その生涯を語らしめようとしたこの書は、早くから新島を知る上で不可欠の文献とされてきた。訳者は北垣宗治教授である。

《既刊》第1回配本／第1巻教育編・頒価・六、〇〇〇円第2回配本／第2巻宗教編・頒価・七、〇〇〇円

第3回配本予定／第5巻日記・紀行編・頒価・未定

●全巻予約受付中

お問い合わせは同志社収益事業課(電〇七五―二五―一三〇三八)まで